

特定非営利活動法人 **日本雲南聯誼協会**

【東京本部】〒162-0846 東京都新宿区市谷左内町 21-13 1 階

Tel: 03-5206-5260 Fax: 03-5206-5261

Email: yunnan@jyfa.org URL: http://www.jyfa.org/

【雲南支部】中国雲南省昆明市人民東路 289 号集大広場 2011 室

Tel: +86-871-63311468 Fax: +86-871-63320658

f http://www.facebook.com/NPO.JYFA @jyfa

ブログ 雲南の郵便屋さん 検索

編集・発行人 初鹿野 恵蘭

印刷協力 昭和情報プロセス(株) (株)技術評論社/デザイン Hope Company



Japan Yunnan
Friendship Association

彩雲の南

第54号

会報

発行日 2015年(平成27年)8月15日

ふれあいの旅 2015

「25の小さな夢基金」 第7期生45名 愛と感動の旅立ち

サポーターの皆さん 3年間のご支援
ありがとうございました

昆明女子中学校で学ぶ少数民族の女子高生を支援する「25の小さな夢基金」。協会は毎年、彼女たちの卒業式にあわせ「ふれあいの旅」を実施しています。今年も16名が参加し、感動的な卒業式への参加や少数民族・モソ人の温かいおもてなしなど思いに残るツアーになりました。

「25の小さな夢基金」は2006年に第1期生10名の支援を開始。これまでにサポートした生徒は468名に上ります。210名以上

の生徒が「高校卒業の夢」をかなえ、今年、新たに45名が巣立ちました。

今年の「ふれあいの旅」は6月27日(土)から7月5日(日)まで、卒業式とフォーラム「未来を創る」への参加のほか、「50の小学校」プロジェクトで支援した小学校訪問、卒業生のふるさと訪問など普通の旅では味わえない体験の連続でした。

今回の会報では「ふれあいの旅」初参加の清水雄輔顧問と伊藤早葵子さんに全体を

通しての感想を、初回から毎回参加している佐伯義博さんに老木壩小学校訪問の感想を書いてもらいました。清水雄輔顧問は協会の法人会員「株式会社キッツ」の名誉最高顧問で、公益財団法人北澤育英会理事長として長年教育支援に携わっています。慶應義塾大学法学部政治学科3年の伊藤早葵子さんは、中国地域・中国近現代政治史研究会に所属。中国農村部の貧困問題に興味があり、参加しました。今回の旅でも雲南各地で大勢の方々に協力していただき、特にフォーラムの会場で参加者の宿泊先でもあった昆明飯店(Kunming Hotel)には多大な協力をいただきました。この場を借りて協力いただいた皆さんにお礼を申し上げます。ありがとうございました。



▲3年間、共に生活し勉強し励まし合ったクラスメートは一生の宝です



▲温かい励ましの言葉に涙が止まりませんでした。参加者の峰尾洋子さん(右)



片岡さんへの感謝の気持ちを込めた自家製フルーツ茶

ふれあいの旅 2015

清水雄輔顧問 特別寄稿



▲清水雄輔顧問が3年間支援したハニ族の李翠英さん(中央)ら卒業生と

だった。重慶師範大学に行く予定だという。初鹿野理事長の話によると、特別市の重慶に行くのは、優秀な成績を取らなくてはならないということであった。「重慶は盆地で特別に暑いところだということで、体には十分に気を付けて頑張ってください」と小生が李さんに言うと、「私は暑いところに住んでいたので大丈夫です」と答えた。協会会員でアカデミックな佐々木英介さんに聞いたところ、「ハニ族は雲南省の南部地方に住んでいるからそうでしょう」とのことだった。

小生としては、支援した少女の聡明さに加え、ハニ族が棚田を作る稲作民族であるということにも共感を覚えた。佐々木さんが、「娘が一人増えたような気持ちになる」とおっしゃっていたが、まさにそうである。

★フォーラム「未来を創る」

7・8人ずつに分かれてグループ討議をした。日本に関する質問に、日本人メンバーが答えるという趣旨であった。グループごとに様々なことが話題となり、大変面白かった。思春期の彼女達の、関心事には「日本の高校生の男女関係は?」「受験生である彼女達に対する親の期待度は日本ではどうか?」等々、日本の若者達と共通点がある一方、違いもあり、極めて興味深かった。

テーブルには、小生が支援しているハニ族の李翠英さんもいた。李さんは小柄で、色は浅黒く、聡明な美しい瞳を持った少女

★昆明女子中学校卒業式参列

卒業式は、どこでも感傷的になる。昆明女子中学校の卒業式は、日本の卒業式と比べて形式ばらず、とても素晴



▲一宿一飯の恩返し 炎天下の中、とうもろこし畑での農作業

らしかった。先生の話も、簡にして要であり、みな涙を浮かべていた。春蕾生の3分の1以上は民族衣装で着飾っていた。極彩色に近い衣装は会報で見ると優雅で美しかった。何よりも先生や初鹿野理事長の問いかけに対し、「はい!」と一斉に答えているのだろうか、その声は若々しいエネルギーに満ちて、強く心に響くものがあった。

夏の日や 春蕾輝く 昆明に

★麗江へそして寧蒗県

麗江は標高 2,300 メートルのトンパ文字で有名なナシ族の都市である。その中心にある古城は、800 年ほど前に茶を馬で運ぶ道として作られ、2 階建木造づくりの建物が続く。数年前世界遺産になった場所であり、大いに期待していたが、結果は全く失望した。街道筋の全ての建屋がお土産物屋に変わり、本来あるその地域に根差した伝統は全く無くなってしまったからだ。それでも、朝起きて古城を歩くと、お店は閉じており、本来の姿になっていた。

つばめ飛ぶ 麗江古城 茶葉の道

麗江からは分乗して、秦徳英さんの実家へ出かけた。3,500 メートル級の峠を越え、

6 時間ほどかけて到着した。山塊の大きさや深さは、日本の山並みでは考えられない規模の壮大さで、圧倒されて息をのむことが何回もあった。同行した協会会員で登山家の峰尾勝美・洋子夫妻によると「地球規模の地殻変動であるアルプスヒマラヤ造山帯の最後端である雲南の山は、登山家にとっては垂涎的」とのことであった。秦さんの実家は山と山の間を流れる金紗江を眼下に見下ろす中腹にある。あまりに山が急峻であるので、山の水を溜めることができず、日照りが 5 年も続いているという。一家 11 名で歓迎してくれた。モソ族はチベット系で、背や鼻も欧米人のように高く、美形の一家であった。牛 3 頭と豚 5 頭を持ち、主にとろろこしとコショウを栽培し、ほぼ自給自足の生活をしている。男衆 4 人が出稼ぎに出ていたが、我々が訪問するというので、みな帰郷し歓迎してくれた。豚の煮込みを主菜として、自家製の白酒を酌み交わし、最後はいとこが階段の上から歌を披露してくれた。我々 4 人は 2 階のラマ仏教の仏間で雑魚寝した。

短夜を ラマの仏間で 雑魚寝かな 短夜の 明けし裾野に 茶毘燃ゆる



▲ラマ仏教の仏間で雑魚寝



▲秦徳英さんの自宅の中庭で自家製野菜をふんだんに使った料理をいただきました

ふれあいの旅
2015「50の小学校」プロジェクト
19校目 老木壩小学校訪問

老木壩小学校の子どもたち

我達一行は6月29日、バスで昆明から高速道路を北上、武定から山道に入り2時間半程で支援第19校目老木壩小学校に到着しました。最近の協会のスーパースター・普小剛君もお出迎えです。

到着後、給食の時間となり小学生は食堂に集合。我達もオープンテラス(?)での昼食となりました。地元で取れたトウモロコシ、マメ、野菜、肉など、最近日本人が忘れがちな素材本来の味がしっかりしていて「とても美味しい!」

子供たちはというと……最初は恥ずかしがっていましたが、民族舞踊を披露してくれました。その後、協会から贈られた縄跳び、ボール、バドミントンなどを手にすると、先生も含め交流の輪がすぐに広がりました。私も40年ぶり位に大縄跳びをして遊びましたが、自分の年齢と高地での低酸素をすっかり忘れ……後の苦しみは想像のとおりです。

訪問を終えて、あの時の子供達のしっかり前を向いた瞳を思い出すと、今後の成長がとても楽しみです。

会員 佐伯義博



④ 地元の食材をふんだんに使った料理を用意してくれました



⑤ オープンテラス(?)での昼食
左から2人目が佐伯義博さん



⑥ 生徒の給食を見学



⑦ 初鹿野恵蘭理事長が個人的に支援している普小剛くん(ミャオ族・6歳)の家



⑧ こんな光景が村のあちこちで見られます



⑨ みんな童心にかえて大縄跳び

ふれあいの旅
2015フォーラム
「未来を創る」

旅の2日目は昆明飯店でのフォーラム「未来を創る」に参加。春蕾クラスを代表して李満華さんがスピーチしました。李満華さんは協会のチャリティーゴルフコンペで集まった支援金のおかげで卒業することができました。スピーチの一部を翻訳してご紹介します。



春蕾クラス卒業生代表
李満華さん

時はあっという間に流れ、苦しかった昨日は過ぎ、今日、私たちは花束と拍手を手に入れました。高校3年生は苦しみと喜びの連続で、苦しい時はみんながそばにいてくれることが救いでした。仲間と言ひ争うこ

ともありましたが、最後には姉妹のような絆を深めました。後輩のみなさんは高校3年生のこの時間を大切にしてください。高3の一年間、もっとも変わりやすく、同時にもっとも変わらないのも気持ちです。気持ちの持ちようで実力を発揮できるかどうかが決まります。3年生の後期、たくさんの試験に気持ちが落ち込むかもしれませんが、思い切って気持ちを切り替えることです。勉強にもそれなりのやり方があります。勇気をもって勉強のやり方を変え、前進する事です。

『水を飲むとき、井戸を掘った人の恩を忘れるな』……協会の初鹿



野理事長はこの15年間、私たちが夢を持てるよう初心を忘れずがんばり続けてくださいました。これからは私も初心を忘れず、微力ながら多くの子どもたちを援助していきたいと思います。

李満華 (漢族・大理白族自治州出身)

雲日国際大学生協力会
老木壩小学校訪問

お兄さん、お姉さん、ありがとう!

雲日国際大学生協力会のメンバーなどが、中国のゴールデンウィークに老木壩小学校を訪問しました。今年3月「第2回日本雲南大学生交流スタディツアー」に参加した学生が、「3月にできなかったことをゴールデンウィークにやろう!」と提案したのがきっかけです。協力会のメンバー15名と雲南大学滇池学院日本語教師・譚盈盈先生、そして雲南支部インターン・秦徳英がプレゼントの洗面用具、本、文具を携え、小学校に向かいました。引率した譚盈盈先生の感想の一部をご紹介します。

私たち16人は5月1日早朝、老木壩小学校へ出発、車で3時間の道のりは想像よりも順調でした。子どもたちは首を長くして

私たちの到着を待っており、早くから校門で待っていたその姿をただで、熱いものが目からこぼれ落ちそうでした。子どもたちの歯は黄色で、髪はべとべと。でも歯磨きし、髪を洗い、かわいいお下げに櫛を入れると見違えるようになり、はにかみもなくなりました。絵本を読み聞かせると、それは熱心に聞き入ったので、長いこと子どもたちにお話を読んであげてなかったのかもしれない。夜には野外で映画を楽しみ、子どもたちは本当に満足そうでした。

二日目はお兄さん、お姉さんたちが踊りや体操の先生をつとめ、子どもたちと一緒に歌い、踊りました。その夜、最後の集まりではほんの短い時間の楽しかったことを思い出し、子どもたちはお兄さん、お姉さんの名前を何度も何度も呼びました。両親が出稼ぎに行っている女の子は、こんなに別れが早いと知らず泣き出してしまいました。



お姉さんたちに髪を洗ってもらいました

短い期間に子どもたちに何か与えられたとも思えませんが、子どもたちに本当に必要なのは、こうした慰めや寄り添いです。彼らにはもっと気配りや心のケア、衛生習慣の指導が必要です。多くの人が子どもたちをさらに思いやることで、彼らはもっと健やかに成長できるのです。離れていても心は寄り添って。

雲南大学滇池学院日語科講師 譚盈盈



⑩ 春蕾クラスOGも参加しました



子どもたちに絵本の読みかせをする譚盈盈先生(中央奥)



青空の下、皆で食べる食事は何よりのごちそうです

参加者

譚盈盈(雲南大学滇池学院講師) 劉依萌 王可可 程恬 趙雲 姚秋彤 王裕潔 劉波潤 李國園 王洋洋 何雨晴 姜頌為 範秋敏 石静(以上、雲南大学滇池学院) 張昱(雲南大学) 金秀茹(雲南師範大学) 秦徳英(雲南支部インターン生)

連載

こんにちはCSR

—協会を支えてくださる協力企業からのメッセージ—

第10回●株式会社リンガーハット

会社概要 1962年、長崎市で「とんかつ浜勝」として創業。九州を中心に44都道府県で「長崎ちゃんぽんリンガーハット」をはじめ「とんかつ浜勝」、「長崎卓袱浜勝」など約700店舗を展開。近年は主にアジアの新興国に進出。味と文化を伝えるとともに、地域行事など積極的に参加、自然環境の保護や食育にも力を入れています。
本社所在地 〒141-0032 東京都品川区大崎1-6-1 TOC大崎ビル14階
TEL : 03-5745-8611 (代表) **FAX** : 03-5745-8622
http://www.ringerhut.co.jp/

皆さんもきっと一度はリンガーハットの「長崎ちゃんぽん」を食べたことがあると思います。協会法人会員の同社は1982年、本社所在地の長崎で起きた大水害の際にいち早く炊き出しを行うなど、従来から社会貢献に力を入れてきました。根底には米濱和英会長の「損得より善悪」という経営哲学が流れています。4年前の東日本大震災では社員が一カ月にわたって交代で現地入りし、約1万食のちゃんぽんを無償提供。CSRチーム

※CSR=Corporate Social Responsibility (企業の社会的責任) : 利益を追求するだけでなく、組織活動が社会へ与える影響に責任をもつこと

の上野賢治部長は「自分たちにできる、身の丈に合った活動をやるだけです」と言います。また「安全、安心」をモットーに、油を動物性から植物性に変え、食材の国産化を図るなど、コストより信頼を重視した経営も人気の秘訣です。実は同社で働く約800人の外国人のうち、約8割は中国人。正社員の中国人女性二人が毎週開かれる「外国人勉強会」の講師を務め、接客用語やマナーを教えています。こういう取り組みを知ると、ちゃんぽんがますますおいしくなりそうですね。



リンガーハットCSRチーム
上野賢治部長

第6回「夢は叶う」講演会

●講師 岩村圭子先生

6月6日 in 昆明女子中学校
1年生100名参加 テーマ「夢は叶う」

ビジネス界の大先輩が「小さな夢基金」の高校生に人生を語る「夢は叶う」講演会。6回目の今年はキャビンアテンダントの経験を持つ上海雅麗商務咨询有限公司の岩村圭子総経理を講師にお迎えしました。また、前日には提携大学の一つ、雲南師範大学外国語学院でも「日系企業の求める人材」をテーマに講演していただきました。「夢は叶う」講演会には昆明女子中学校春蕾クラスの1年生100名が、雲南師範大学外国語学院では日本語専攻の1～3年生86名が出席しました。そこで岩村さんに感想を寄せていただきました。



会場は満席となりました

先生の話を真剣に聞いていました



講師の岩村圭子先生

中国滞在11年目にして初めて降り立つ雲南省は、「常春」「少数民族」程度のイメージしか浮かばない、私にとって遠い場所でした。今回、ご縁があってこの地の大学生や高校生と交流することになりました。

テーマの「夢は叶う」を頂いてから、講演までの間、奇しくもこれまでの自分の人生を振り返る時間を持つチャンスを得ました。

いったい「私の夢はなんだったのか?」「夢を叶えたのだろうか?」自問自答するうちに、自分のこれまでの歩みを振り返り、彼女たちに伝えたいメッセージが明確になってきました。それは、「どんな境遇に生まれついたとしても、絶対無理かもしれないけれど、自分のやりたいことは“挑戦”してみなければ



何もスタートしない」ということ。そして、「全力でチャレンジして、無理だったことはあきらめがつく」ということ。もしスタートラインにも行けないなら、その思いを伝えることで、誰かが助けてくれることもある。だから、「思いを口に出すこと」。もちろん、「夢は誰でも叶う」なんてきれいごととは言えませんが、夢に向かって歩んだその道のりで学んだことは、自分の肥やしになってきたのだと言い切れます。だから、夢を描くことを忘れてしまわないように。いくつになっても…。そんな思いを込めた2時間でした。

また、前日の雲南師範大学外国語学院での講演は「日系企業の求める人材」というテーマで、現役の日系企業総経理にもご参加いただきながら進めました。今回一番驚いたのは、日本語を学ぶ学生さんたちのレベルの高さでした。日本のアニメが日本語学習のきっかけで、今もアニメやドラマから言葉を学んでいるらしく、言葉を巧みに使いこなすだけでなく、日本文化もかなり理解している様子。また、実際の日本や日本人との接触が少ないながらも、純粋に「日本に行ってみよう」「日本が好き」と目を輝かせて話して

くれる姿をうれしく思いました。残念ながら、雲南省では学んだ日本語を生かせる場がまだ少ないと聞きましたが、彼らの素直で希望に満ちたまなざし、笑顔と情熱が絶えることがないように、日本語や日本にかかわる仕事につけるよう全力で応援したいと思います。



身振りを交えての実践講習



「夢は叶う!」と信じて頑張ります



6月13日 第15回定時総会及び懇親会 開催報告

第15回定時総会が下記の通り行われましたのでご報告いたします。

日時 : 6月13日(土) 10:00～12:00
場所 : 株技術評論社内5階 会議室
司会進行 : 中村有里子理事
議決権を有する会員数 361名
出席会員数 187名(うち委任状出席167名)

下記の議案について審議が十分につくされ全て原案通り承認されました。

議案

- 第1号議案 2014年度事業経過報告及び承認の件
- 第2号議案 2014年度会計収支決算報告・会計監査報告及び承認の件
- 第3号議案 2015年度事業計画案審議の件
- 第4号議案 2015年度会計収支予算案審議の件
- 第5号議案 役員選任・退任について

新理事 自己紹介

2010年、協会設立10周年のボランティアとして関わりはじめてから、あっという間の5年。その間、雲南省へ6回行き、今年の「ふれあいの旅」を含め、多くの協会イベントをお手伝いしてきました。そして底なし沼に落ちた様に、肩までドブ漬け浸かってしまいました。この際首まで、いやいや全身浸かって頑張ります。

滝澤 崇



懇親会の様子



滝澤 崇 新理事



林 則幸 新理事

この度、理事の大役を仰せつかることになりました。協会15周年の節目での就任に身が引き締まる思いがいたします。これまで、協会事業の数々の業務に携わり私自身が成長できたのも、会員やボランティアそして理事顧問会の皆様のご指導の賜物と深く感謝しております。協会発展のためにより一層に精進する所存ですので、今後ともどうぞ宜しくお願いいたします。

林 則幸

『上海総経理会』 2015 研修旅行 in 雲南

上海の日本人総経理有志で作る『上海総経理会』の一行が6月初め、雲南省招商合作局範海副局長主催の交流懇親会参加と、メンバーの岩村圭子さんの雲南師範大学および昆明女子中学での講演にあわせ、雲南を訪れました。2008年10月に設立された同会は法律や金融などの勉強会、各種交流活動を行っており、現在61人の会員がいます。今回は会長を務める後藤電子(上海)有限公司の青柳茂彦総経理に感想を寄せていただきました。

今回昆明を訪れたのは、『上海総経理会』の岩村圭子総経理が雲南師範大学などで講演を行うというので、その応援と学生を指導されている皆さんと交流するためでした。

岩村氏の講演は「マナー」という演題でした。個人的に印象に残ったのは「初対面時、相手が自分に好意を持つかどうかは5秒で決

まり、5秒で何をアピール出来るか」という話と「挨拶する時の視線は、相手の中心線を見てはいけない、目を見ることが大切」という話でした。

講演は大成功でした。学生の皆さんは話に聞き入り、一般の講演にありがちな雑音などは皆無でした。全員、日本語会話が流暢だったことも講演が成功した要因であったことは言うまでもありません。また、岩村氏は所要所で四書五経の考え方を説明し、分かりやすく工夫されていました。本当に素晴らしい講演でした。

その後の交流会では、協会の初鹿野理事長が食事をする間も惜しんで総経理会メンバーをサポートされていて、お陰様で思い出に残る研修旅行となりました。本当にありがとうございました。

後藤電子(上海)有限公司 総経理 青柳茂彦



聶耳歌劇院内レストランでの会食

イベント
報告

さいたま国際友好フェア2015

「小さなボランティア」奈良脇百夏ちゃん(10歳)も参加

さいたま市で活動する 30 国 60 の国際交流団体が一堂に会す「さいたま国際友好フェア 2015」が 5 月 3 日と 4 日、市民の森・見沼グリーンセンターで開かれました。各団体が活動紹介や民俗舞踊の披露、民芸品・世界の食べ物の販売などを行い、ゴールデンウィークで好天にも恵まれて来場者数は 7 万 5 千人を超えました。協会大宮支部は、雲南の子どもたちの教育支援活動のほか、民族衣装の紹介や観光PRなどを行いました。今年は「小さなボランティア」として会員の奈良脇光夫さんのお孫さん・奈良脇百夏ちゃんが初参加。暑期中、協会のパンフレットを一生懸命配ってくれました。2日目はNHKとJCOMの取材を受け、放送後には「放送を見た



ベテランからお孫さんまでボランティアの輪が広がっています

よ。頑張って」と声をかけてくれる方もいました。ボランティア協力 (順不同、敬称略): 川口邦夫 大泉雄 青柳茂樹 佐藤正典 横山晋 高橋福子 丸田智代 市川由美子 奈良脇光夫 奈良脇百夏 小野保 服部恵美子 寺内明子

祝・杉谷隆志先生
「米寿記念墨画展」開催

協会設立当初から14年間、協会の理事を務めていただいた墨美会会長・杉谷隆志先生の米寿を記念して6月9日(火)から15日(月)まで個展を開かれました。協会スタッフが日頃のお礼として、田中八重洲画廊(東京都中央区八重洲)での会場設営とオープニングをお手伝いしました。多くの協会関係者も会場に足を運び、杉谷先生が中国を旅しながら描かれた水墨画を鑑賞しました。杉谷隆志先生の末永いご活躍を祈念いたします。

杉谷隆志先生
(前列右から
2人目)



杉谷隆志先生の作品

協会の会員・役員も大勢駆けつけました

協会 山岳愛好部発足
皆さんの入部をお待ちしています!

会員やボランティア同士の親交を深めるレクリエーションの一環として、初鹿野恵蘭理事長をはじめ、トレッキングを愛する有志が「山岳愛好部」を立ち上げました。少しずつ活動範囲を広げ、最終的には雲南での山歩きを目指していきます。

5月6日(水)、部員6人が高尾山(東京都八王子市)で初トレッキングを行い、山頂で部員お手製のお弁当に舌鼓を打ちました。緑豊かな山道でさわやかな汗をかき、日頃のストレスも



吹き飛ばしました。

山岳愛好部は今後、週末や連休を利用して活動していきます。登山初心者の方、自然の写真撮影が趣味の方、山頂での食事を楽しみたい方、皆さんの入部をお待ちしています。

第19回 全国巡回写真展
「笑顔を君に」 in さいたま

今年度初の全国巡回写真展「笑顔を君に」が6月14日(日)～17日(水)、さいたま市市民活動センターで開かれました。今回は過去最多の68枚(本部所有16枚、大宮支部所有52枚)の写真を展示。写真のほか民族衣装7点、協会の活動を紹介するパネル、「小さな壁新聞」プロジェクトで日本と雲南の小学生が作った壁新聞も展示しました。来場者は210名に達し、「雲南の子どもたちの笑顔や風景を見て、子どものころを懐かしく思い出しました」「カラフルな民族衣装がとてきれいだ」などの感想が寄せられました。今年は、ボランティアの王珊さんが雲南省少数民族の楽器・瓢箪笛を演奏し、会場の方々と踊って楽しく過ごしました。期間中、のべ45名のボランティアに会場設営などをお手伝いいただきました。ご協力ありがとうございました。



ボランティアの皆さんのおかげで大成功!



ボランティア協力 (順不同、敬称略): 川口邦夫 大泉雄 青柳茂樹 佐藤正典 横山晋 高橋福子 丸田智代 市川由美子 服部恵美子 鳥羽清弘 王珊 寺内明子

高尾山山頂(標高599m)からの眺めは絶景です



お知らせ

中国語講座やってます! 好好学习 天天向上!

「中国語を勉強しよう!」と教材を買ったり、ラジオ講座を聞いてみたりしたものの、発音が難しくて挫折したという方はたくさんいると思います。協会の中国語講座では発音を繰り返し練習し、しっかり基礎を学びます。

毎回発音の基礎から練習するので、途中から参加しても不安なくついていけます。興味ある方はぜひ一度、お試しください。

日時: 毎週木曜日 19:00~20:00
場所: 榊技術評論社内 日本雲南聯誼協会東京本部事務局
参加費: 500円/回 ※教材費込み。参加費は講座運営費に充てます。
講師: 協会会報誌「彩雲の南」 木本一彰編集長
お問い合わせ・お申し込み: 日本雲南聯誼協会東京本部事務局
担当: 渡部 優美 (わたべ ゆみ)
☎03-5206-5260 ✉yunnan@jyfa.org



オリジナルの教材

nǐ hǎo
你好!

第19回 チャリティ
ゴルフコンペ
参加者大募集!

初心者も
大歓迎

毎回100名以上にご参加いただいている協会恒例のチャリティゴルフコンペ、今年は10月10日(土)に大月カントリークラブ(山梨県大月市)で開かれます。これまでに同コンペで集まった支援金で、昆明女子中学校春蕾クラスの子生徒12名を支援できました。あなたもゴルフコンペに参加して、支援の輪に加わりませんか?

日時: 2015年10月10日(土)
場所: 大月カントリークラブ
(山梨県大月市)
※詳細は協会事務局にお問合せ下さい。

イベント
情報

- 2015年度 第2回理事会及び役員・顧問会
日時: 8月5日(水)
理事会16:00~ 役員・顧問会17:00~
場所: 榊技術評論社内 会議室
- 協会設立15周年記念式典・懇親の会
日時: 8月22日(土) 式典13:00~ 懇親の会15:30~
場所: 京王プラザホテル
(東京都新宿区西新宿2-2-1)
- 第3回日本雲南大学生交流スタディツアー
日時: 8月19日(水)~29日(土)
場所: 都内各地、長野県青木村
- 第3回日本雲南大学生交流スタディツアー 活動報告会・懇親会
日時: 9月5日(土) 報告会13:00~
場所: 榊技術評論社5階 501会議室
※報告会終了後、懇親会
- グローバルフェスタ Japan2015
日時: 10月3日(土)、4日(日)
10:00~17:00 ※予定
場所: お台場・センタープロムナード公園
(東京都江東区青海1-2)
- 第11回雲南教育支援チャリティーゴルフコンペ
日時: 10月10日(土)
場所: 大月カントリークラブ
(山梨県大月市浜浜町鳥沢7084)
- 第36回八王子いちようまつり
日時: 11月21日(土)、22日(日)
協会出張場所: 並木町郵便局横 (東京都八王子市)
- 2015年度 第3回理事会及び役員・顧問会
日時: 11月27日(金)
理事会16:00~ 役員・顧問会17:00~
- 第15回チャリティー忘年会
日本と雲南少数民族友好の夕べ
日時: 12月19日(土)
場所: ビヤステーション恵比寿
(東京都渋谷区恵比寿ガーデンプレイス内)

皆さまに支えられて15年

協会設立15周年
記念式典・懇親会
8月22日(土)

日本雲南聯誼協会は2010年6月の設立以来、雲南省の山岳地域に暮らす少数民族の子どもたちの教育環境を改善するため尽力してまいりました。皆さまのご支援・ご協力を賜り、ようやく設立15周年を迎えることができました。つきましては、皆さまとともに15年間の歩みを振り返り、今度の活動を語る記念式典・懇親会を8月22日に開きます。雲南省からは人民政府僑務辦公室副主任、「25の小さな夢基金」で支援する女子高校生8名をはじめ、協会協力者も多数、お祝いに駆けつけます。会員以外でも参加できますので、協会の活動・雲南省に興味のある方は是非ご出席ください。

日時: 2015年8月22日(土)
記念式典13:00~ 懇親会15:30~
場所: 京王プラザホテル
(東京都新宿区西新宿2-2-1)
記念式典…南館4階 錦の間
懇親会…本館5階 コンコルドボールルーム
会費: 12,000円 (当日会場受付にて賜ります)
参加申込・お問合わせ:
日本雲南聯誼協会東京本部事務局
☎03-5206-5260
✉yunnan@jyfa.org

編集後記

先日、鳥取県米子市で行われた「皆生トリアスロン大会」に出場しました。水泳3キロ、自転車140キロ、マラソン42キロに挑む約1000人の選手を支えるのは、4000人以上のボランティアです。特に炎天下を走るマラソンは、給水所とボランティアなしでは完走できません。沿道から送られる声援、笑顔、ハイタッチ、すべてが背中を押してくれます。ランニングをされている方には、僕の気持ちがお分かりだと思います。選手として励まされ、助けてもらう立場になって初めて、そのありがたみを痛感できるのです。人は優しくされた分だけ、人に優しくなれます。
(編集長・木本一彰)

お知らせ

協会の公式SNS
ぜひチェックして
みてください!

- Facebook 「日本雲南聯誼協会」公式アカウント
https://www.facebook.com/NPO.JYFA
- Facebook 「日本雲南大学生交流スタディツアー(日本雲南聯誼協会)」公式アカウント
https://www.facebook.com/YunnanStudyTour
- Facebook 「雲南省 少数民族の女子学生に夢を! 25の小さな夢基金」公式アカウント
https://www.facebook.com/25foundation
- ブログ「雲南の郵便屋さん」
http://blog.canpan.info/yunnan/
- 日本雲南聯誼協会ホームページ
http://www.jyfa.org/
- Wechat(微信) 協会公式アカウント ID: rbynlyxh
※中国語が分かる方はぜひ登録してください

